

年頭のあきつ



横越村長 浅見良一

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、謹んで皆様のご多幸とご繁栄を心から祈り申し上げます。

さて、昨年は国の内外を問わず世界的な経済不況の嵐が吹き荒れる中で円高不況、雇用の低迷、記録的な猛暑、空前の水不足など深刻な事態となって国民生活を脅かし、その影響は誠に厳しいものがありました。

このような社会情勢の中において豊かさやゆとりが実感できるような環境づくり実現のため、山積する諸課題に努力を重ねて参ったところであります。

幸い村民各位の深いご理解とご協力を賜り、かつ、議会のご支援により、その意とすることができろを幾分か達成することができました。

村の重点的施策であります農工商業の振興と福祉施策の拡充強化、全村下水道事業の着手、ごみ、し尿処理対策を含む福祉環境整備の促進。また、小中学校の教育施設整備、総合体育館の建設等、教育文化の推進を図り、ここ数年來着実な成果と躍進を示しております。

村の将来像

今後の村づくりのあり方については現在第三次総合計画の後期計画を審議会に諮問しているところであります。本村は新潟都市圏の中心に位置する立地条件と高速交通ネットワークの整備に伴い関係市町村との連携による相乗効果を生み出し、住宅団地の造成、地場産業の振興と経済の発展はもとより、安定した住民生活の実現に向けて大きく貢献するものと期待するところであります。

道路網整備

現在、国道四十九号の歩道整備をはじめ、横雲バイパスの開通が二車線の暫定供用で今年の秋頃に予定されており、一日も早い開通が待たれるところであります。



ります。
一方、新潟東港を起点とし西蒲、巻町の国道四〇二号線に接続する大外環状道路のルート構想が先程発表されたところであり、その中心をなす豊栄市と横越村を結ぶ大阿賀橋の工事も順調に進捗しており、平成九年の供用をめざしております。

土地利用計画

幹線道路網の整備により、土地利用のあり方が検討されなければなりません。従って、計画的な市街化区域の拡大や、市街化調整区域における開発、工業、流通団地の誘致、商業地域の指定など地域活性化の観点からも必要不可欠からざる重要課題であり、積極的に推進する所存であります。

農業施策

本村の基幹産業である農業は米をめぐる農畜産物の自由化により厳しい環境下におかれておりますが、新しい食料、農業、農村政策で示された新農政プランを先取りした農業経営育成のビジョンづくりを進めています。その実現に向けて農家と農業団体、行政が一体となって農業構造基盤の整備、担い手育成の確保と経営指導、農地流動化促進対策事業など総合的に推進するとともに国や県に対し強力な支援体制を求めて行く必要があります。

教育振興

教育施設関係であります。中学校の柔剣道場の完成と併せ小学校の体育館の増設も三月中には完成させ、今年は小学校のグランド整備に着手します。また、待望久しかった総合体育館もこの四月よりオープンし住民の健康づくり、生涯スポーツの推進に大きく役立つものと期待しております。

生活環境整備

平成三年度に全村下水道整備計画を策定し、現在木津地区を中心に整備を進めており、下水道整備率は三月末で74%に達す

る見込です。更に水洗化率の向上に努めてまいります。

ごみ処理対策として現在進められております亀田焼却場の更新事業も総事業費約二百七十億の巨費を投じて平成八年の完成を目指しており、一方村内の不燃物処理施設として藤駒地区に今年から二ヶ年計画で管理型最終処分場の建設に着手する予定であります。

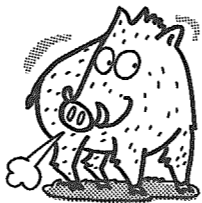
福祉政策

村民の幸せは村民一人ひとりの健康づくり対策であります。国県の施策と呼応し、村の保健福祉計画を策定し高齢化、少子社会の到来に対処するため、保健福祉活動の一層の拡充強化を図って参る所存であります。

以上本村の現状と施策の一端を申し述べましたが、常に開かれた村政、みんなで築く村政を基本理念とし、二十一世紀を見据えた村の飛躍発展と町制施行実現に向けて最善の努力をする覚悟であります。賢明なる村民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成七年 元旦

今年亥年



今年亥年―十二支の最後の干支です。十二の方角を示すそれぞれに動物を当てたのは中国からです。中国でも当然同じ亥年です。しかし、おもしろいことに、中国ではカレンダーなどに描かれる絵は、イノシシでは

なくブタの絵をみかけます。イノシシは、ブタの先祖ですから、同じようなことでしょうか。

さて、イノシシは、日本では北海道、東北、北陸の一部を除いた広い範囲に分布しています。奄美大島や沖縄などには、琉球イノシシと呼ばれている小型のものが生息しています。

イノシシは雑食でキノコやタケノコなどの植物を食べますし、ヘビやカエル、ミミズなどの動物も食べます。また、「ぬたを打つ」といって、体に泥を塗る

イノシシといえば、猪突猛進という言葉が連想されます。でも、いまはゆとりの時代です。暮らしにメリハリをつけ、猪突猛進したら、ゆっくり休むようにしたいものです。

亥年の横越村の主な出来事

- 明治32年 木津巡査駐在所(木津、沼海、二本木)設置
- 明治44年 大干ばつで四百石の水田に亀裂、4台の揚水機でかううじて田植えを終わる
- 大正12年 沼海郵便局開局、河川改修のため焼山へ十九戸移転
- 昭和10年 二本木にバスが通る

十二月五日に総合計画審議会が開催されました。委員には村民各界、各層から構成された二十四人が委嘱されています。まず審議会の会長には坂内俊夫氏(村議会議長)、副会長には五十嵐孝哉氏(農協組合長)が選出され、村長から会長に横越村第三次総合計画後期計画案が諮問されました。その後計画



諮問書を手渡す浅見村長

村第三次総合計画 後期計画案を審議会に諮問

- 昭和22年 横越中学校設置
- 昭和34年 県知事から新潟市への合併勧告解除通知出される
- 昭和46年 稲作転換対策始まる
- 昭和58年 農村環境改善センター竣工

案の説明、審議に入りました。村では昭和六十年に村づくりの設計図である第三次総合計画(十五年計画)をスタートさせ計画にそって事業を進めてきました。このたび平成七年度からの後期計画を策定するため、役場内で幹事会を六月に発足させ計画原案をとりまとめました。後期計画(平成七年度から十一年まで)は、基本構想にもとづき住民福祉の向上、産業振興、教育・文化の充実をはじめ町制施行や計画的な土地開発をすすめるための土地利用などを定めるまちづくりの設計図ともいえる重要なものです。今後審議を重ね、二月末には答申が出される予定です。

1. 豊かなくらし住みよい村をめざして
2. 高い文化水準ふると村をめぐらして
3. 均衡ある経済活動、緑多き村をめざして



亥年生まれ人口

